

JR東海労ニュース

No.1110

2008年9月5日

JR東海労働組合

文書は責任持って管理していた！セキュリティーは万全！ 蒲郡駅古田助役が証言！

9月4日、名古屋地裁で蒲郡駅事件第3回公判が行われました。前回同様、JR総連に結集する仲間たちにも参加いただき、160名が結集し傍聴券獲得と報告集会を開催しました。今回は、検察・会社の切り札となる事件の核心に関わる蒲郡駅古田助役の主・反尋問が行われました。問題となっている管理者用文書を管理していた助役が証言するということもあり、505名もの傍聴希望者が集まり、特に、会社とJR東海ユニオンは、350名以上の社員・組合員を動員しました。しかし、法廷に入った多くは会社関係者と大卒組合員のようでした。要するに、現場組合員は、かき集められただけで門前払いということです。暑い中たまったものではないですね。このような中、私たちは、傍聴席76席中25席を確保しました。

さて、文書管理責任者・古田助役の証言によると、「(窃盗された)文書は、責任を持って管理している。当日の鍵のかけ忘れは記憶にない。盗まれるはずはない」とのことでした。しかも、保管している文書類の重要性やそれ自体の存在は、一般社員(加藤誠二さん)には絶対にわからない、書棚に何が管理されているかもわからないはずであるという趣旨の証言をしました。要するに、助役管理文書は一般社員には取り出せる(窃盗できる)客観的状況ではないし、どこに何があるかもわからないはずと証言したのです。さらに、駅長から、「自分の管理していた文書が盗まれてホームページに載せられたようだ」とは言われたが、事情聴取はされていないとまで言いました。このことは、会社が、あらかじめ加藤誠二さんにターゲットを絞って、デッチ上げ工作(窃盗ありきで)を行っていたことの逆証明になります。検察の描いたストーリーはことごとく崩壊しました。無実がより明らかになりました。堂々と闘いを推し進めていきましょう！
次回は9月30日10:30から、東海鉄事中村人事課長の証人尋問です。



決意表明する加藤誠二さん



蒲郡駅事件第3回公判
デッチ上げの実態がさらに鮮明となる！